

06

“クレイジーな1日の 終わりにピアノジャズ が私を休ませる”

◎ MY ROOM

ウミット・ベナン (DESIGNER)
UMIT BENAN

ソウルを落ち着かせ
スケッチをはかどらせる

「深夜23時、家に帰ってきてスケッチに取り掛かる。その時にピアノのジャズミュージックを流す。なぜなら、私の中でリラクセスするには最適なんだ。なにか特定のアーティストやアルバムはない。普段は、ランアンからトルコ、ラップ、ジャズ……本当に色々なジャンルを聴くよ。ジャズを聴くようになったのは、2000年にNYへ引っ越した時。80年代のオールドスクールなジャズがとてもクールに感じたんだ。NYという街だったから、聴くようになったのかもしれないが、スケッチの調子が一番良いということに気付いたんだ。私のインスピレーションやイメージとなるものは、場所や音楽をはじめ様々な分野だが、ジャズもその一部だね。今回、2017春夏のコレクションでは、ランアンがインスピレーションと

なっている。もし自分の中でジャズのインスピレーションが強く降りてくることがあれば、そういうコレクションとなるだろう。あくまで今、私にとってジャズはリラクセス。クールな上に、ソウルが休まるんだ」。

ジャズも東京も私にとって
リラクセスができるものだ

「そういう意味では、私にとって東京も同じ。もう何回も来ているけれど、一人でバーに行っても誰も私のことを知らないからチルができる。その反面、賑やかさもあって、クレイジーになりたかつたらなれるし、リラクセスしたかたならできる。沢山の選択肢を感じるね。もう一つのホームだと思っている。それに日本酒が好きで、音楽を聴いている時이기도飲む。私の人生と仕事はクレイジーだから、リラクセスできるジャズも東京も本当に重要なんだ」。

Profile

トルコ人の両親を持ちドイツで生まれ、幼少期をイスタンブール、高校はスイス、大学以降をボストン、ミラノ、ロンドン、NYで学ぶ。多文化的で国際性のあるデザイナー。

